

2011 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2011 年 5 月 18 日（水）～21 日（土）

午後：シンポジウム
第 4 日（5 月 21 日）
午前：口頭，ポスター
午後：公開気象講演会*・専門分科会
*事前申込制
2. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
<http://nyc.niye.go.jp/>
3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（5 月 18 日）
午前：口頭，ポスター
午後：専門分科会

第 2 日（5 月 19 日）
午前：口頭，ポスター
午後：総会，受賞記念講演，懇親会

第 3 日（5 月 20 日）
午前：口頭，ポスター

5. シンポジウム
大会第 3 日（5 月 20 日）の午後に開催予定です。テーマは「変動する地球気候の鍵 —南極・北極—」です。

6. 懇親会
大会第 2 日（5 月 19 日）の夕刻に、大会会場にて開催予定です。

7. 大会ウェブサイト【2011 年 1 月 11 日（火）開設予定】
本大会では、大会ウェブサイトを用いて、2011 年 1 月 11 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規定」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。
- 1.1 オンラインによる申込
 - ・締切：2011 年 2 月 15 日（火）15 時（日本時間）
 - ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
 - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申

込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とIDの登録は講演者本人が行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行ってください。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演申込み締め切り(2月15日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切: 2011年2月8日(火)必着
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿
 - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの(様式は自由です。)
 - ③ 郵便振替払込受領証(次項参照)
 送付先:
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内
気象学会講演企画委員会事務局
(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
一口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

- 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ① 「2011年度春季大会参加申込」と明記
 - ② 会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
 - ③ 大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
 - ④ 大会参加費金額
 - ⑤ 懇親会費金額
 - ⑥ 合計金額
- 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- 払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2011s@metsoc.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2011年4月5日(火)までに大会ウェブサイトにて参加登録し、参加費を払い込んで下さい(クレジットカード決済のみ)。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2011年3月29日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。
 - 口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
- 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ① 「2011年度春季大会参加申込」と明記
 - ② 大会参加種別(聴講者)
 - ③ 大会参加費金額
 - ④ 懇親会費金額

⑤合計金額

- ー「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもらなく記入して下さい。
- ー払込料金は本人負担をお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

- ・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- ・講演者の種別：
 - 講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
 - 講演者 B：講演者 A に該当しない講演者
- ・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。今回は、格段に参加しやすい料金を設定いたしました。

た、世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	3,500 円	4,000 円
学生	1,000 円	1,000 円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

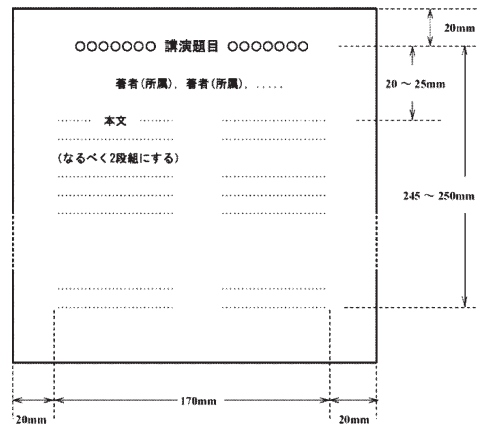
4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部

には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20~25mm として下さい。本文はなるべく 2 段組 (左半分→右半分) にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は (社) 日本気象学会に帰属します。



図：A4判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表 (専門分科会を含む) とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。

ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法 (口頭/ポスター) につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は、大会第 1 日 (5 月 18 日 (水)) 及び大会第 4 日 (5 月 21 日 (土)) の午後に開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンピーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ (オンライン申込は 2 月 15 日 (火)、郵送申込は 2 月 8 日 (火)) です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コンピーナーが大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンピーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦 150 cm×横 180 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、

小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへ

の備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。
- ・ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2011年度春季大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

1. 「ひまわり8号、9号」が拓く新しい気象学」

趣旨：2015年度から運用を開始する予定の「ひまわり8号、9号」は、他の静止気象衛星運用国に先駆けて、最先端の観測を実現すべく計画された衛星である。可視・赤外放射計のチャンネル数は現行の5から16へと飛躍的に増え、観測頻度は全球で10分毎、特に日本付近では2.5分毎（ラピッド・スキャン観測）へと強化される。これらの機能強化により、気象業務の実利用として台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視能力の向上やデータ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などが期待されるとともに、気象学の発展の観点からも極軌道衛星等との複合観測による大気現象のメカニズム解明や気候変動の監視・解析などへの活用の期待が高まっている。新衛星についての情報提供の後、「ラピッド・スキャン観測」、「新セ

ンサーの活用」、「数値モデルへの同化」の3つのサブテーマおよび「総合討論」により、新衛星が果たすべき役割について広く議論したい。

コンビーナー：大野智生（気象庁気象衛星センター）、中島 孝（東海大学情報技術センター）、岡本幸三（気象研究所）、増田一彦（気象研究所）

2. 「AR5に向けた気候変化予測の現状」

趣旨：気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第1作業部会では、第5次評価報告書(AR5)の2013年公開を予定している。各国研究機関においては、第5期結合モデル相互比較実験(CMIP5)のプロトコルに従い、AR5に向けて新しい温室効果気体排出シナリオを用いた気候変化予測実験を鋭意進めている。本分科会では、モデル初期値化を伴う近未来気候変動予測、地球システムモデルによる長期気候変化計算、高解像度大気モデルを用いた極端現象予測といった新たなアプローチから得られる最新成果や科学的課題について、さまざまな角度か

ら議論することを目的とする。

コンビナー: 木本昌秀 (東京大学大気海洋研究所), 鬼頭昭雄 (気象研究所), 石井正好 (気象研究所), 河宮未知生 (海洋研究開発機構), 渡部雅浩 (東京大学大気海洋研究所)

3. 「2010年夏の異常気象」

趣旨: 2010年夏の日本の平均気温は、1898年の気象庁統計開始以来、最も高い記録となった。特に8月の国内平均気温平年差は+2.25度とこれまでの記録(1994年の+1.87度)を大きく更新した。世界に目を向けてみると、ロシアの熱波、パキスタンの大雨、南米の寒波など各地で異常気象が頻発しており、地球規模の大きな変動であったことが分かる。なぜこのように大きな振幅の変動が生じたのか、その要因を解明することは、サイエンスとして興味深いだけでなく、広く国民の安心安全を実現するため、気象学研究に従事する我々に課せられた責務であろう。この分科会では、2010年夏季の日本付近に異常高温をもたらした直接および間接的要因に関する研究成果を交換し、議論の場を提供すると同時に、今後の異常気象研究の出発点としたい。

コンビナー: 釜堀弘隆 (気象研究所), 楠 昌司 (気象研究所), 木本昌秀 (東京大学大気海洋研究所), 中村 尚 (東京大学大学院理学系研究科), 向川均 (京都大学防災研究所), 立花義裕 (三重大学大学院生物資源学研究科), 前田修平 (気象庁気候情報課)

4. 「衛星搭載マイクロ波放射計と雲・降水システム研究」

趣旨: 日本は窓領域のマイクロ波を観測する衛星搭載マイクロ波放射計のハードウェアでは世界のトップレベルにある。例えば、JAXAが開発した「改良型高性能マイクロ波放射計 (AMSR-E)」は、NASAのAqua衛星(2002年5月打ち上げ)に搭載され、2010年10月現在も稼働している。この後継の「高性能マイクロ波放射計2 (AMSR2)」を搭載した、JAXAのGCOM-W衛星の打ち上げが2011年度に予定されている。ところが、この豊富で多様な衛星搭載マイクロ波放射計観測データを利用する研究者は、我が国では非常に少ないのが

現状である。本分科会は、衛星搭載マイクロ波放射計のハードウェア、雲・降水アルゴリズム等の基本的なReviewと、放射計を中心とした衛星搭載マイクロ波センサによる最近の雲・降水システム等の研究の紹介部分との2部構成とし、この分野の大きな可能性について議論したい。

コンビナー: 青梨和正 (気象研究所), 中村健治 (名古屋大学地球水循環研究センター), 沖 理子 (宇宙航空研究開発機構), 今岡啓治 (宇宙航空研究開発機構), 高橋暢宏 (情報通信研究機構), 高藪 縁 (東京大学大気海洋研究所), 重 尚一 (京都大学大学院理学研究科)

5. 「ウィンドプロファイラの現状と将来」

趣旨: 2001年4月に運用を開始した気象庁の局地的気象監視システム (WINDAS: ウィンドプロファイラ (WPR) 網) は、2011年に10周年を迎える。現業用ウィンドプロファイラとして、国内では気象庁業務 (メソ数値予報モデル, 実況監視など) や関係機関、研究目的でも利用されるほか、GTS (全球通信システム) 回線を経由して国際的にも利用されている。運用開始10周年を記念した専門分科会を開催し、WINDASの成果報告と共に研究ベースで実施されている高度利用についても議論する。以下の内容で招待講演と一般講演で構成し、気象学会会員に対する情報提供を主体とした分科会とする予定である。

- WPRの基礎
- 気象庁のWPR網の特徴
- WPRの高度利用 (湿度情報や降水観測への活用等)
- 次世代WPR (多重化, イメージング等の最新技術関連)

コンビナー: 赤枝健治 (気象庁観測部), 小林隆久 (気象研究所), 橋口浩之 (京都大学生存圏研究所), 水野 量 (気象庁観測部)

6. 「気象庁が提供する気象データの利用と数値モデル開発の現状・課題」

趣旨: 気象学会と気象庁との間で、包括的な共同研究契約である、気象研究コンソーシアムが締結されて3年が経過しました。コンソーシアムでは、全球・メソ・アンサンブルといった数値予報データ, 全球二酸化炭素分布データ, MTSATのラピッ

ドスキャンデータなどを有効活用し、最先端の研究とその成果の社会還元を促進することを目的としています。この専門分科会では、

1. データ同化と数値モデルの改良、精度向上に関する研究
2. 数値予報の出力結果を利用する研究
3. 新しいデータ（二酸化炭素や MTSAT ラピッドスキャン）を用いた研究

などに関する講演を募集し、これらデータの研究への寄与と今後の課題について討議いたします。この分科会の趣旨に沿う研究であれば、コンソシアムへの参加の如何にかかわらず、積極的なご応募をお願いします。

コンピーナー：岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、余田成男（京都大学大学院理学研究科）、加藤輝之（気象庁数値予報課）

7. 「柳井迪雄先生追悼特別セッション：熱帯気象学

の明日へ向けて」

趣旨：UCLA 名誉教授でいらした柳井迪雄先生は2010年10月13日に急逝されました。柳井先生は、日米の熱帯気象学をリードされ、特に台風解析、赤道波、雲を含む熱バランス解析（Q1Q2）、チベット気候、モンスーン、などに関して大変重要な概念と功績を残されました。また、亡くなる直前までインターネットを通じて発行され続けた **Tropical Meteorology Newsletter** は、世界の熱帯気象学者に最新の熱帯気象研究情報を届け、日本の気象研究者を力強く応援してくれました。柳井迪雄先生の偉大なご功績を偲び、熱帯気象学の最近の発展と将来展望について議論するための特別セッションを提案します。

コンピーナー：高菦 縁（東京大学大気海洋研究所）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、大内和良（海洋研究開発機構）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、専門分科会に関しては各コンピーナーの判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2011s@metsec.jp）へ申し込んで下さい。

申込期限：2011年2月15日（火）

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容

大会会場の利用について

春季大会で口頭発表の行なわれる4会場は、5/18, 5/20, 5/21の夜間（17:00～20:30）に、研究会開催のために利用できます。但し、5/21は19:30までとします。

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介致します。

- ・セルリアンタワーポピンズキッズルーム

〒150-0031 東京都 渋谷区桜ヶ丘 26-1

セルリアンタワー東急ホテル 3F

TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377

http://www.poppins.co.jp/room/index.html#shibuya_ku

利用可能時間：10:00～19:00（20:00まで延長可）

アクセス：渋谷駅から徒歩約5分

利用料金：2,625円/1時間（最低2時間；30分単位）

持ち物：食事（ルームサービス可）、おやつ、おむ

つ、着替え、保護者の身分証明書

大会実行委員会では、利用料金の一部を補助する予定です。上記の施設、及びそれ以外の保育施設の利用等、保育支援をご希望される方は、2011年4月18日（月）までに下記担当者までご連絡ください。また、それ以外のお問い合わせにもできる限り対応致しますので、ご連絡をお願いします。

連絡先：山内 恭、平沢尚彦（国立極地研究所）

E-mail：yamanou@nipr.ac.jp, hira.n@nipr.ac.jp

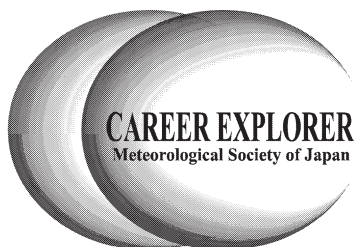
TEL：042-512-0604, 042-512-0685

IX. キャリアエクスプローラーロゴの試験的導入について

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴを2009年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。（同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。）

2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさで挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの試験的導入について

日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会国際大気科学協会 (IAMAS) 小委員会は、近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、今大会から大会会場にてリクルートブースを試験的に導入することとしました。これは、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者が、広く民間企業にて適職に出会うのをサポートするために、申し出のあった企業の就職担当者に会場に来て頂き、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供する試みです。参加予

約等の手続は不要です。

ブースはポスター会場に併設する予定で、原則として毎日コアタイム（ポスター発表時間・昼休み）にのみ、企業側担当者が対応します。また、展示を行なう企業のうち予め届出のあった企業についても、展示ブース（ポスター会場に併設）にリクルートブースの併設を許可します。この場合、コアタイム以外の対応も可能です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発表の予定です。